

令和7年度 第1回宗像市地域公共交通会議 議事録要旨

日 時	令和7年5月14日(水) 14時00分～15時25分
場 所	宗像市役所本館 103A会議室
出席者	<p>【委員】内田忠治(会長)、川下英次郎、古野貴史(代理)、池田舞、出田貴宏、湊上大輔(代理)、矢加部忍、古後澄雄、吉田益美、大枝良直、川野一代(代理)、辻美貴善(代理)、武末将児(代理)、宮地信裕</p> <p>【オブザーバー】安増裕希、宮本英明、四元浩、宮部佑一、吉武修平</p> <p>【事務局】内田忠治、大塚将司、春本英憲、平島佳世子、大内田賢美、櫻井翔子</p> <p>【産業政策課】小田淳、藤江香凜</p>
開会	会長挨拶
協議事項	<p>(1) 観光周遊バスについて(産業政策課)</p> <p>(2) 公共ライドシェア 自家用有償運送について</p> <p>(3) 公共ライドシェア 自由ヶ丘地区、河東地区の実証について</p>
報告事項	<p>(1) ふれあいバス・コミュニティバス・オンデマンドバスの利用状況</p> <p>(2) ラストワンマイル交通需要調査(第2期:11月～3月)結果 中間報告</p> <p>(3) MaaS事業の実施について</p> <p>(4) 路線バスについて(松ヶ台循環線、津屋崎鐘崎線)</p>
その他	(1) 令和7年度事業計画

区分	質疑内容等
会長	開会 会長挨拶
会長	協議事項(1)観光周遊バスについて、産業政策課から説明をお願いします。
産業政策課	資料に沿って、協議事項(1)観光周遊バスについて説明。
会長	産業政策課から説明があったが、質疑等はあるか。
吉田委員	アンケート結果で、来訪のきっかけがチラシ、観光ガイド、知人からの誘いの順であったが、SNSでの周知はしていないのか。
産業政策課	▶ 実証したところSNSよりチラシ等のアナログな方法が効果的であった。
吉田委員	▶ チラシの置き方・配布場所の検討、そして、実証で効果的でなかったSNSの対策についてお願いしたい。
産業政策課	▶ 様々なツールを使い、戦略的に広報を行う。
矢加部委員	昨年度からバス停留所が増えていると思うが、バス停は新設されるのか、既存のバス停を利用されるのか。
産業政策課	▶ 昨年度と同様、新設は簡易の移動式のバス停を想定している。既存のバス停としては、コミュニティバスのバス停を使用する想定である。
出田委員	運行時間について、赤間駅北口を12時48分に出発する5便だが、赤間駅に12時49分、50分に着く電車がある。それより前だと少し早く赤間駅に到着することになる。JRとの接続についてはどのように考えているのか。
産業政策課	▶ 12時41分(特急)、12時22分(快速)がある。余裕をもって移動していただくことを想定してダイヤを組んでいる。
出田委員	▶ 帰りの便の調整についてはいかがか。4便の赤間駅北口到着が12時48分。その1、2分後に電車が出発する。

産業政策課	▶ 12時48分到着については、13時7分の博多駅行き、13時6分の小倉行きの電車を案内したい。
出田委員	▶ 僅差で電車に間に合わない状況は、利用者サービスとしてよいのか懸念がある。数分の差で乗車できるかでサービスが大きく異なる。発着の赤間駅の接続については、よく検討いただきたい。
産業政策課	▶ 今回、桜町からの乗り換えや渡船との調整も考え、ダイヤを組んだ。頂いた意見のもと運行時間を見直します。
川下委員	▶ 観光施設まで西鉄バスも運行している。お客さまが間違えて一日乗車券を西鉄バスで利用しないように周知していただきたい。
産業政策課	▶ 券面やデザイン等が決まればご相談に伺い、誤って利用することが無いように作成する。
池田委員	車両2タイプの違いについて説明をお願いしたい。
産業政策課	▶ 通常「三菱ふそう ローザ」で運行するが、故障時は「トヨタハイエース」で運行するため、2つの車両を記載している。
池田委員	現時点の1日の目標利用人数について教えていただきたい。
産業政策課	▶ 昨年度1日利用平均32名であった。それを超える40名程度を目標とする。
会長	運行時間の4、5便について。12時48分に到着し、12時48分に発車は難しいのではないか。
会長	▶ 運行時間の変更については、事務局一任で問題ないか。
出田委員	▶ 確認だが、議決事項としてこの場で決定しなくてよいのか。
会長	▶ 本会議は協議を整えるものであり、決定まではしなくてよい。
会長	協議事項（1）についてはご承認いただいたということによろしいか。 （一同異議なし）
会長	協議事項（2）公共ライドシェア 自家用有償旅客運送について、事務局から説明をお願いする。
事務局	公共ライドシェア 自家用有償旅客運送について、資料をもとに説明。
会長	事務局から説明があつたが、質疑等はあるか。
吉田委員	タクシー事業者所有の車両が緑ナンバーではなく、白ナンバーでもよいという提案か。
事務局	▶ 前回の会議で緑ナンバーだけに限定したが、白ナンバーでもよいとした。
武末代理	▶ 白ナンバーでも可能とした背景について教えていただきたい。
事務局	▶ タクシー事業者からご意見いただき、白ナンバーでも運行できるように変更した。
古野代理	▶ 公共ライドシェアの開始にあたり、白ナンバー用の車両を準備しているため、運行実施を依頼した。 確認であるが、第一種運転免許で公共ライドシェアの研修を受けたものであれば、運行可能の認識でよろしいか。
事務局	▶ ご認識のとおりである。
会長	協議事項（2）について、ご承認いただいたということによろしいか。 （一同異議なし）
会長	協議事項（3）公共ライドシェア 自由ヶ丘地区、河東地区の実証運行について、事務局から説明をお願いする。
事務局	協議事項（3）公共ライドシェア 自由ヶ丘地区、河東地区の実証運行について、資料をもとに説明。
会長	事務局から説明があつたが、質疑等はあるか。
安増オブザーバー	実証運行の終了時期について教えていただきたい。

事務局	▶ 両地区とも令和8年2月末までの実証運行、3月からの本格運行を予定している。
安増オブザーバー	本格運行の稼働日数や曜日について教えていただきたい。
事務局	▶ 実証運行の結果で最適な曜日や稼働日数を見極めたい。
吉田委員	岬地区は実証運行を開始しているが、火、木、土曜日のコミュニティバスの運行に生活スケジュールが慣れているため、月、水、金曜日で運行する公共ライドシェアの乗り手が少ない状況である。このまま利用者が少ない場合、3月から本格運行せず廃止する考えなのかをお聞きしたい。
事務局	▶ 何人以下であれば廃止する等の明言はできないが、7月からアプリを導入する等、より利用しやすい環境をつくり、実証運行で終わることなく本格運行につなげていきたいと考えている。
安増オブザーバー	参考資料として他自治体の料金を載せているが、その自治体を選定した理由を教えてください。
事務局	▶ 鴻巣市については当市が視察に行ったため、また、三好市については、距離で料金を算出している自治体であるため参考として載せている。
安増オブザーバー	鴻巣市を視察に選んだ理由について教えてください。
会長	▶ 市職員の立場として自身が視察したが、当市と同じ課題を抱えていたこと、また、人口が特定地域に一極集中していないところが当市と類似していた。鴻巣市はバスで循環しながら、縁辺地域はタクシー輸送をしている。タクシー事業は、福祉タクシーのように距離に応じて補助を出している。当市がどのような料金形態（定額や距離に応じた額等）で導入すべきかを検討するため鴻巣市を視察先に選定した。
辻代理	バスとタクシーの間の乗り物であるため、バスの運賃よりも高く、タクシーの運賃よりも低い基準で設定されたかと思われる。
古野代理	岬地区の実証運行にみなとタクシー株式会社が車両を出している。4月21日から5月7日までの1日平均0.3人の利用者であった。コミュニティバスは往復200円で運行しており、公共ライドシェアはバスとタクシーの間の金額であるため乗車数が少なかったと思っている。
古野代理	公共ライドシェアの拡大に伴い、タクシーをご利用のリピーターが減少すると感じている。特に自由ヶ丘地区の青葉台等はタクシーを利用されるお客さまが多く、公共ライドシェアの台数が増えることにタクシー事業者は不安に感じている。運行台数については、本格運行する前にタクシー事業者ともよく協議をしていただきたい。
吉田委員	▶ タクシー事業者の経営の問題もあるが、西鉄バスが無くなった場合は、岬地区等の市民は電車に乗ることもできない。公共ライドシェアは3人で利用した場合70歳以上であれば赤間駅まで一人700円でいける。タクシーだと岬地区から赤間駅まで3700円ほど。市民としては大変有り難いため、皆がwinwinになり、公共ライドシェアが存続する方法を市には検討していただきたい。
事務局	▶ タクシー事業とのバランスを考え、関係事業者と話し合いながら台数は決める。実証運行期間中に必要な運行台数を見極めて、市全体での台数を制限する。
古野代理	公共ライドシェアに必要な台数は、みなとタクシー株式会社は出す考えである。しかし、市民へ周知した上での1日の利用者数平均0.3人という数字が出た以上は、需要がそこまで無かったのではないかと。みなとタクシー株式会社はコミュニティバスの運行もしており、乗務員が利用者に聞いたところでは、コミュニティバスの運行日とあわせて買い物や病院の予定を入れているとのこと。安価なコミュニティバスのほうが公共ライドシェアより需要があるのではないかと。
古野代理	▶ コミュニティバスが無くなり、公共ライドシェアに切り替わる話を聞いた。その時期を市民に周知しているのか。

事務局	▶ コミュニティバスの廃止を決めているわけではない。現状、コミュニティバスも公共ライドシェアも支線交通であり、乗継拠点までの運行を想定している。利用者が乗り継ぐことでより安価に、そしてスムーズに、快適に目的地まで行ける仕組みをつくっていききたい。
吉田委員	▶ 岬地区には買い物をする場所がなく、買い物をするためには東郷まで行かなくてはならない。また、病院も無い。他地区は毎日コミュニティバスが運行している中、岬地区等は1日置きのコミュニティバスの運行であり、また西鉄バスの路線廃止の申し出もあっている。毎日の住民の移動手段をどうするのかということが課題であった。
古野代理	▶ 利用者の自宅からバス停までの移動は問題ないのか。
吉田委員	▶ 岬地区は自宅からバス停までが遠い。昨年度ラストワンマイルで交通需要調査を行ったが1回500円のチケットでは岬地区は利用しづらかった。1日置きバスの運行や西鉄バスの路線廃止に対し、市民の交通をどうするのが今回の実証のはじまりである。
大枝委員	1人で乗った場合の料金が未就学者「無料」と記載があるが、未就学者は一人で乗ることはないのではないのか。誤解を招かない記載をお願いする。
事務局	▶ 誤解を招かないよう記載を修正する。
大枝委員	自由ヶ丘地区と河東地区とで乗降ポイントが異なるが、どの地区の市民にも公共施設については同じ機会を与えるべきではないか。
事務局	▶ 公共ライドシェアはコミュニティバスやふれあいバスと同じ支線路線交通であるため、これらのバスの沿線上に乗継拠点にもあたる所も含めて乗降ポイントを設定させていただいた。
出田委員	河東地区は2つの駅が乗降ポイントを設定しているが、赤間駅のほうが安価であるため、東郷駅より赤間駅に人が流れるのではないのか。料金設定の考え方について教えていただきたい。
事務局	▶ 料金は、各地区のコミュニティ・センターを起点に距離を計測して設定している。
会長	協議事項（3）について、ご承認いただいたということによろしいか。 （一同異議なし）
会長	報告事項（1）ふれあいバス・コミュニティバス・オンデマンドバスの利用状況について、事務局から説明をお願いする。
事務局	報告事項（1）ふれあいバス・コミュニティバス・オンデマンドバスの利用状況について、資料をもとに説明。
武末代理	利用者数増加に対して工夫している点を教えていただきたい。
事務局	▶ ふれあいバス、コミュニティバスは、地域の意見を聞いて乗降場所を決めている。オンデマンドバスでは、アプリ説明会を実施したり乗り方教室を実施したりする等、高齢者を中心に利用促進策を行った。
古後委員	オンデマンドバスは、計画目標に対する達成率や対策等についての記載をお願いしたい。より利用促進に繋がる。
事務局	▶ 配布資料は速報値だが、毎年、計画の施策評価を行うため、そちらに達成率等を記載し、計画的に進めている。今後、速報値報告資料にも記載をする。
会長	報告事項（2）ラストワンマイル交通需要調査（第2期：11月～3月）結果中間報告について、事務局から説明をお願いする。
事務局	報告事項（2）ラストワンマイル交通需要調査（第2期：11月～3月）結果中間報告について、資料をもとに説明。
会長	事務局から説明があったが、質疑等はあるか。 （質疑なし。承認いただく。）
会長	報告事項（3）MaaS事業の実施について、事務局から説明をお願いする。
事務局	報告事項（3）MaaS事業の実施について、資料をもとに説明。
会長	事務局から説明があったが、質疑等はあるか。

出田委員	J R 東郷駅からの移動を記載されているが、観光周遊バスは赤間駅の発着である。施策との整合性等について教えていただきたい。
事務局	▶ 協議事項（1）観光周遊バスの運賃に関するページに、九州 Maas で造成するデジタルチケットを掲示することで無料と記載している。Maas に関することに留まらず、Maas をきっかけに宗像市内の様々なことを宣伝する考えである。よって、Maas を展開する際に、東郷駅から赤間駅までの片道運賃 240 円で観光周遊バスを無料で利用できることを宣伝する。点ではなく、面で事業を展開する。
出田委員	▶ 観光周遊バスの連携についての加筆があると観光にも繋がると思うため、お願いしたい。
会長	報告事項（3）について、ご承認いただいたということによろしいか。 （一同異議なし）
会長	報告事項（4）路線バスについて（松ヶ台循環線、津屋崎鐘崎線）、西日本鉄道株式会社から説明をお願いします。
西日本鉄道株式会社	報告事項（4）路線バスについて（松ヶ台循環線、津屋崎鐘崎線）、資料をもとに説明。
事務局	松ヶ台循環線については、赤間営業所から海老津駅に行く利用者がいる。代替えとして J R を使ってもらうことを想定している。しかし、津屋崎鐘崎線の勝浦線については、水産高校に通う生徒の代替え交通が必要。次回の公共交通会議で代替え交通について協議させていただきたい。
古野代理	水産高校に通う生徒の代替え交通は深刻だと感じる。スクールバスの活用等は検討するのか。
事務局	▶ まずは水産高校に路線バス廃止の影響を確認し、福津市の公共交通も踏まえて検討する。
会長	報告事項（4）について、ご承認いただいたということによろしいか。 （一同異議なし）
会長	これをもって令和 7 年度第 1 回宗像市地域公共交通会議を終了する。

(以上)